

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 幹事 高田賢一

テクニカルツアー@旭川市 多種多様な技術が集積する都市・旭川に学ぶ

1. はじめに

青年技術士交流委員会では、平成 30 年 8 月 6 日(月)に、旭川市において、北海道地図株式会社の本社および林産試験場、男山酒造り資料館を見学するテクニカルツアーを開催しました。

近年、i-Construction など ICT 技術の普及が進み、この根幹となる地理情報技術の重要性が年々増えています。また、北海道において戦後植林された森林資源の蓄積が進んでいる中、これら森林の利用期に差し掛かっており、木材をいかに活用していくかが課題となっています。

このような中で旭川市には、全国有数の地理情報技術を持つ北海道地図(株)の本社があり、市の基幹産業の一つである木材加工業を背景に全国で珍しい存在の(独)北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場(以下、林産試験場)があるなど、多種多様な産業の技術が集積しています。また、大雪山系を主な源とする豊富な水資源を活かし、江戸時代からの酒造りを継承した「男山」が有名です。

これらを踏まえ、道北の中核都市である旭川市の産業技術について知ることを目的とし、北海道地図本社の地図工場および林産試験場と「男山」の資料館を見学し、その概要や機能等を学びました。

このテクニカルツアーの概要などについて、以下に報告します。

2. テクニカルツアーの行程

日時：平成 30 年 8 月 6 日(月) 9:00 ~ 18:30

参加数：会員 10 名(幹事 9 名、EPO 募集 1 名)

内容：

- ・ 9:00 札幌駅北口出発
- ・ 11:00 ~ 12:00 北海道地図(株)見学
- ・ 12:30 ~ 13:15 昼食(大雪地ビール館)

- ・ 14:00 ~ 15:30 林産試験場 見学
- ・ 16:00 ~ 17:00 男山酒造り資料館 見学
- ・ 18:30 札幌駅北口 解散

3. 見学内容

(1)北海道地図(株)本社工場見学

北海道地図(株)は 1953(昭和 28)年に創業して以来、地図専門メーカーとして多種多様な地図を製作してきた高度な地理情報技術をもつ全国でも有数の企業です。いち早く GIS 技術に着目し、日本全国を網羅する空間情報データベース「GISMAP シリーズ」を整備するなど、先進的な技術を追求しています。

この北海道地図(株)の本社は道央圏から旭川への入口である神居古潭からほど近い台場地区に位置し、広大な敷地の中に地図製作工場と印刷工場が配置されています。

バスを降車後、本社内 1 階のロビーに設置されている資料室を見学した後、会社概要及び GIS 技術の概要について説明を聞きました。

まず、資料室ですが、本社ロビー内に配置されており、入場無料でいつでも見学可能だそうです(※要事前連絡)。

資料室内には VR 技術を利用した鳥観図やジオパークとコラボしたノベルティグッズが展示されており、地理情報技術を身近に感じました。

次に、地図の製作・印刷工程を見学しました。まずパソコンで製図を行い、そのデータは CTP 製版機を経由して印刷機に送られ、初めて紙で印刷されます。印刷はもちろん、裁断や図面折りに至るまで機械を用いて自動作製しています。北海道内はもちろん、全国各地の官公庁や民間企業から受注した図面の成果品が所狭しと並べられており、実績の豊富さと、技術力の高さを感じました。



写真-1 A倍判4色オフセット印刷機



写真-3 キノコの試験栽培の様子

(2) 林産試験場見学

昼食(大雪地ビール館)を挟み、林産試験場の見学を行いました。まず試験場の概要について説明を受けてから見学しました。当試験場は1950(昭和25)年に北海道唯一の林産研究機関として創設され、道内に豊富にある森林資源等を木製品へ活用する加工技術や、関連する技術としてキノコの栽培についての研究及び開発のほか、企業からの技術相談を受けた依頼試験を多数実施しています。

代表的な研究成果としては、木材の活用を促進するための新たな木材乾燥技術「コアドライ」や、インフルエンザワクチンの増強効果があるキノコ「大雪華の舞1号」の開発などがあります。

敷地内には他に道内の木製品や当試験場で開発した技術を紹介する「木と暮らしの情報館」と、木製品の遊具が置かれ、子どもが遊べる「木路歩来(コロポックル)」が併設され、地域に貢献する取組を行っており、個人的にとっても参考になりました。



写真-2 試験場内部の様子

(3) 男山酒造り資料館見学

テクニカルツアーの最後は、男山酒造り資料館見学です。本家「男山」は江戸時代中期の17世紀に現在の兵庫県伊丹市で創業し、明治初期に一旦廃業してしまいましたが、1968(昭和43)年に旭川の山崎酒造へ本家「男山」が正統継承され、社名を改称(男山株式会社)し現在に至っています。

この資料館の内部には、江戸時代の「男山」が伝える酒造りの資料や、喜多川歌麿・歌川国芳などの浮世絵や昔の酒造り道具などが多数収蔵されており、興味深く見学できました。

また、1階には試飲コーナーがあり、ここで造られた日本酒の数々を楽しむことができました。



写真-4 試飲コーナー

4. おわりに

最後に、今回の企画に快くご賛同いただき、見学内容や当日の案内・説明等に多大なご協力を賜りました北海道地図(株)さま、林産試験場のみなさまならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。